



代々に受け継がれる伝統： トビウオ季

独自の文化を今でも守り続けるタオ族の暮らし

台東県に属する離島の一つ、蘭嶼。島に住む人々のほぼ全体がタオ族という名の先住民族であり、そこは黒潮に恵まれトビウオ漁が盛んな島として知られ、トビウオはタオ族の食文化のコアでもあります。

台湾の先住民族はそれぞれの独特な祭りがありますが、タオ族の祭りといえばトビウオ季。島で代々受け継がれてきたこの祭りは毎年2月・3月ごろから始まり、トビウオを招き大漁を祈願するための「招魚祭」からその幕が開かれ、この時期はトビウオ以外のものは捕らないのが伝統です。6月・7月になると「収穫祭」に入り漁期は終わり、トビウオの捕獲は一切禁じられ他の魚を捕り始めます。この時期になるとトビウオは冬の食料として保存できるよう干し物にします。そして中秋節後の「終食祭」を迎えるとトビウオを食べなくなり、残ったトビウオもみだりに捨てず、豚や犬の餌として与えます。

前述のとおり、トビウオ季はおもに三段階に分かれており、2月から9月までを一括にトビウオ季といいます。新鮮なトビウオを味わいたい方は4月・5月をオススメし、家の外にずらりと並べられたトビウオの一夜干しを見たい方は「収穫祭」のころに蘭嶼を訪ねるといいと思います。

伝統文化にタブーはつき物。近年スノーケリングやスキューバダイビングの名所としても有名な蘭嶼ですが、トビウオ季の時期は漁場でマリンスポーツを行っては絶対になりません。そして特に注意してほしいのはチヌリクラン（タオ族の伝統船）に触れないこと、そして無断にトビウオが干されている家宅の庭にはいりこむこと（信じ難いかもしれませんが、撮影目当てで実際毎年この禁忌に触れる観光客が多いみたいです）。現地の文化を尊重しながら楽しんでいただけたら、きっと素敵な旅があなたを待っているに違いありません。



蘭嶼

蘭嶼はトビウオの故郷と呼ばれ、台湾では二番目に大きい離島です。タオ族語「Pongso no Tao」は「人の島」という意味で、昔は「紅頭嶼」と呼ばれていましたが後に白い胡蝶蘭が世界的に有名になり、その名を「蘭嶼」へと変更。島にはタオ族という先住民族が居住し、彼らの生活は海とつながっています。その生活は今も変わらず、自然と共に生きていくことが大変重要視されています。そこから生まれた「トビウオ季」・チヌリクランや伝統的な家宅で作り上げた集落などといった独自の伝統文化は四方に名を馳せております。

そのため、毎年春夏の「トビウオ季」は旅人がこの地を訪れるのに最適な時期となっています。蘭嶼を訪れた旅人は単純に旅を楽しむだけでなく、タオ族の知恵をも学べる旅になることでしょう。

蘭嶼のタオ族は主に椰油・漁人・紅頭・野銀・東清・朗島の六つの集落に別れ、椰油・漁人・紅頭は前山部落に属し、多くの旅人は生活上も比較的便利なこれらの地域に訪れます。一方で野銀・東清・朗島は後山部落として知られ、さらに奥深い旅が楽しめます。



イベント予定

5 月

- 毛ガニ祭
- 金剛マラソン
- 台東マラソン

6 月

- 池上竹筏フェスティバル
- 2019年台湾国際バルーンフェスティバル

7 月

- 2019年台湾国際バルーンフェスティバル
- 先住民豊年祭
- Makapahay文化祭
- 加路蘭手作りバザール
- 2019年台湾東海岸大地芸術祭



台湾を知れば知るほど愛してやまない 酒井充子監督の思いとは

すべては一本の台湾映画から始まりました。酒井監督はツイ・ミンリャン監督の『愛情萬歳』を観て台北に行きたい気持ちが湧き上がり、そこである日本語の喋れるおじいさんと出会いました。おじいさんは日本統治時代の頃、日本人の先生にとってもかわいがってもらった思い出話をして『今でもその先生に会いたい!』と話したことが酒井監督に強烈なインパクトを与えました。

そして生まれた台湾三部作。前二作の「台湾人生」(2009年)と「台湾アイデンティティー」(13年)では日本に対して複雑な思いを抱く台湾の80歳以上のお年寄りの方、即ち日本統治時代を経験された方々のストーリーを伝えました。三部作目に関して酒井監督は「どんなに時代が変わろうとも、台湾の人たちは台湾の海に、山に向き合い、汗を流して働いて生きてきた。だからこそ、いまの台湾がある。人々が紡いできた日々の暮らしこそが台湾にとってかけがえのない宝であり、台湾の原動力となっている。長年にわたる取材の中で、そんな至極当たり前のことに改めて気づかされ、前二作に続く台湾三部作最終章として、その当たり前のことを撮りたいと思った」と。そんな思いが浮かんだ後、台東県成功鎮で張旺仔さんに出会い、その思いを実現できると実感しました。そんな「台湾萬歳」には、日本人が大切にしなければならぬと気づき始めたものが映像で記録されております。

これから次の作品に取り掛かる酒井監督ですが、今度のステージは台東県の離島：蘭嶼に決まりました。蘭嶼といえば、島の人口ほぼ全体が先住民族：タオ族で、水中視程がとても良くマリンスポーツにとっても向いている島として有名です。今からおよそ120年前、世界で始めて蘭嶼について研究された人類学者：鳥居龍蔵の跡を辿って、今を生きるタオ族青年の思いがどのようなものか知るため、酒井監督は動き始めます。

蘭嶼ではスノーケリングだけではなく、東清湾でタオ族独特のチヌリクランを体験できます。島にある材木で造り上げられるチヌリクランはタオ族にとって生活の上で重要な道具でもあり、島の上における祭りのほとんどが船と繋がっていて、一つの伝承でもあります。年配の方の話によると、この世のすべてのものには魂があり、風雨雷電・岩石・動植物それぞれに各々の存在する価値や意味があり、それらに関する数々の伝説や言い伝えが聞けます。

祭を楽しむ、自然を満喫する、あるいはタオ族の文化を体験する。あなただけの蘭嶼を見つけてみてはいかがでしょうか。